

## タイトル： 耐震構造を考える（四回シリーズ）

### この講義のねらい：

建物の耐震構造に対して一般社会の注目が最高に高まったのは、大変に残念なことだが2005年11月に発覚した「耐震偽装事件」（第9回の講義で説明）のときであった。1995年の阪神大震災でもこれほどの世論の高まりは見られなかったことを考えるとき、日本人がいかにも「お上」による建築行政に頼り切っていたかが分かる。

そこには、地震に対する建物の安全性は法律に従っていさえすれば大丈夫と思っていた日本人の考え方が透けて見える。同時に一般のひとたちが、日頃使っている建物の耐震性能についていかに知らないかということが、白日のもとにさらされた出来事でもあった。

そこでこの四回シリーズでは、日本における耐震構造をさまざまな切り口から俯瞰することによって、工学や科学技術と文化との関わり合いを考えてみたい。

### スケジュールと概要：

- 11月18日 第6回 **なぜ耐震構造を考えるのか？ ～地震被害からの教訓～**  
2011年東北地方太平洋沖地震での地震被害  
1981年以前に設計された古い鉄筋コンクリート建物の被害  
耐震補強された建物の被害
- 11月25日 第7回 **耐震構造ってどうやるの？ ～鉄筋コンクリート構造の場合～**  
鉄筋コンクリート（RC）構造の歴史、特徴  
RC部材のこわれ方（よいこわれ方と悪いこわれ方）  
耐震設計の基本的な考え方
- 12月2日 第8回 **耐震構造はどう発展したのか？ ～耐震構造・温故知新～**  
それはたった独りのイギリス人から始まった（J. Conder）  
地震による大災害からの教訓を得て発展してきた  
地震国である日本では、耐震構造自体がひとつの文化
- 12月9日 第9回 **これからの耐震構造はどうあるべきか？ ～三位一体で考える～**  
「お施主（Client）」、「建築業界」および「国家（お上）」  
耐震構造とは純粹に技術の成果に依存しており、きわめて工学的である。  
その一方で、人間社会とは切っても切れない関係にあり、社会の合意無くして耐震構造はあり得ない。